京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 3 年目)

1. 研究課題

日本鍼灸医術の形成―近世医学史の再構築

Formation of Japanese acupuncture-moxibustion : Reconstruction of the medical history in medieval and early modern Japan

2. 研究代表者氏名

長野　仁

Nagano Hitoshi

3. 研究期間

2018 年 4 月-2021 年 3 月(3 年目)

4. 研究目的

現代鍼灸は、極端な欧化政策による鍼灸廃絶の危機を回避するために、医科学的アプローチによる臨床研究を最優先課題とし、医道の伝統を継承しつつも歴史的な側面は置き去りにしている。日本医学の通史を振り返る時にも、近代医学の系譜として先駆的業績を顕彰するに止まり、近世に大いに発展した鍼灸医術の種々の流儀や理論的構造に論及することはない。しかし、京都大学の富士川文庫をはじめとして、数多くの流儀書、理論書が伝存しており、日本医道における技術的伝統は手がつけられないままに埋没している。

そこで、本研究では、鍼灸関連の古医書の総合的な考察を試み、鍼灸医術の形成、伝承形態の具体的様相を明らかにし、多角的なアプローチによって鍼灸医術の本質的特色を探る。そして、「日本鍼灸学」という新分野を開拓し、医薬、鍼灸の学界に遡及的考察を行う研究基盤を構築することによって、近世医学史の再構築を図る。

In order to avoid the crisis of the abolition of acupuncture and moxibustion due to Europeanization policy, the modern proponents and practitioners of the field have made clinical research from a medico-scientific perspective a top priority, while they have not made much of historical research in spite of inheriting from the tradition. When looking back on history, they have only praised the pioneering achievements related to modern medicine, and have seldom discussed diverse methods and theories that have been greatly developed in the early modern period. However, in such collection of medical books as the Fujikawa collection of Kyoto University, there remain many books on such methods and theories and these technical traditions are still buried untouched.

In this study, we aim to comprehensively evaluate these medical books, clarify the specific aspects of the formation and tradition of acupuncture and moxibustion medicine, and explore the essential features of the medicine from historical perspective. Through these, we will attempt to reconstruct the history of early modern medicine, as well as to develop a new field of "Japanese acupuncture and moxibustion studies" which would provide a foundation to reflect the research results in the fields of medicine, pharmacy, and acupuncture and moxibustion.

5. 本年度の研究実施状況

今年度は海外からの特別講師を招いて特別講演会を実施予定であったが、感染症拡大の影響のため来年度に延期せざるを得なくなり、また本研究班は班長をはじめ、班員にも医療従事者が多いことから、共同研究会の開催計画等においても大幅な変更を余儀なくされた。こうした計画の変更はあったものの、個々の班員や小規模グループによる資料調査や読解をすすめることにより、とくに鍼術流儀書の成書や流派の成立年代に関する従来の学説を重点的に再検討し、その成果を持ち寄って年度後半に集中して共同研究会を開催、各研究成果に関する討議をおこなった。また、研究期間中にすでに刊行した近世医家新出史料集第一冊・第二冊を改訂・増補し、近世医家新出史料集Ⅰ　武田時昌監修・長野仁編集『改訂版　儒医姓名録―後藤艮山門人録の影印・翻刻』（長野仁解説の加筆訂正）、近世医家新出史料集Ⅱ　武田時昌監修・永塚憲治編集『一本堂南洋先生　門人録　増補版』（人名索引の補正及び附録として新出資料『修庵香川先生易弁』の影印・翻刻および解題（武田時昌））として刊行した。班員によるこれまでの研究成果をまとめた論文集を来年度に刊行するための準備も進めている。

6.本年度の研究実施内容

2020-12-20 鍼灸流儀書の再検討 『五躰身分抄』および『百腹図説』『五十腹図説』の考察 司会 髙井たかね 人文科学研究所 栄西と桑粥 ― 平安中期から鎌倉期の糖尿病史 ― 発表者 富田貴洋 湧貴堂鍼灸院 『百腹図説』『五十腹図説』の書誌的考察 発表者 長野仁 森ノ宮医療大学大学院

2021-01-31 医学・鍼灸各流派の成立と伝承（一） 粕谷流と杉山流 司会 髙井たかね 人文科学研究所 粕谷流の流儀書について～雲海士流・扁鵲新流との関係性～ 発表者 松木宣嘉 四国医療専門学校 杉山流の形成史～入江流・圭庵流を中心に～ 発表者 大浦慈観 東洋鍼灸専門学校

2021-02-14 医学・鍼灸各流派の成立と伝承（二） 古方派医学と雲海士流 司会 長野仁 森ノ宮医療大学大学院 後藤艮山の生涯とその一族について 発表者 今井秀 今井整形外科 雲海士流について 発表者 松岡尚則 公益財団法人研医会

2021-03-21 司会 長野仁 森ノ宮医療大学大学院 室町期における医学・医書受容の一様相―五山僧が繋ぐ知のネットワーク― 発表者 田中尚子 愛媛大学 『倭名類聚抄』におけ

る『本草和名』の引用 発表者 武倩 中国海洋大学外国語学院 翻訳と導入～中国南北朝期の仏教と医学 発表者 多田伊織 大阪府立大学 江戸時代医学公教育を取り巻く経穴学派の諸相 発表者 加畑聡子 北里大学東洋医学総合研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績

2021 年 3 月刊行

近世医家新出史料集Ⅰ　武田時昌監修・長野仁編集『改訂版　儒医姓名録―後藤艮山門人録の影印・翻刻』（長野仁解説の加筆訂正）

近世医家新出史料集Ⅱ　武田時昌監修・永塚憲治編集『一本堂南洋先生　門人録　増補版』（人名索引の補正及び附録として新出資料『修庵香川先生易弁』の影印・翻刻および解題（武田時昌））

8. 研究班員

所内

平岡隆二、高井たかね、古勝隆一

学内

赤澤久弥（附属図書館）、成高雅（人間・環境学研究科）、中神由香子（医学研究科）、劉青（人間・環境学研究科）

学外

荒川緑（東洋鍼灸専門学校）、猪飼祥夫（猪飼鍼灸院）、ウォルフガング・ミヒェル（九州大学・名誉教授）、浦山きか（森ノ宮医療大学）、浦山久嗣（赤門鍼灸柔整専門学校）、大浦宏勝（はりきゅう処 路傍庵）、郭秀梅（順天堂大学医学史研究室）、加畑聡子（北里大学東洋医学総合研究所）、梶谷光弘（公益財団法人いづも財団事務局）、梁永宣（北京中医薬大学）、小曽戸洋（[公財]武田科学振興財団杏雨書屋）、佐々木友子（森ノ宮医療学園専門学校）、島山奈緒子（明治国際医療大学）、鈴木達彦（平成帝京大学薬学部）、高津　孝（鹿児島大学法文学部）、多田伊織（鈴鹿医療科学大学）、宗敦浩（鍼灸洌心堂）、谷田保啓（たにだ鍼灸院）、中神源一（中神内科クリニック）、長谷川佳与子（奈良女子大学大学院）、東昇（京都府立大学文学部）、深水美和（大阪府立平野支援学校）、松木 宣嘉（四国医療専門学校）、真柳誠（茨城大学・名誉教授）、三鬼丈知（大谷大学文学部）、横山浩之（森ノ宮医療大学鍼灸情報センター）、富田貴洋（鍼灸湧貴堂）、豊田裕章（大阪府立豊中支援学校）、長谷川宗輔（長谷川鍼灸院）、名和敏光（山梨県立大国際政策学部）、武田時昌（京都大学名誉教授）

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	外国人	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
学内（法人内）	3	5	1	1	1	1	13	1	1	1	1
		(2)	(1)	(1)	(1)		(5)	(1)	(1)	(1)	
国立大学	1	1	0	0	0	0	1	0			0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)			(0)
公立大学	2	6	1	1	1	1	12	3	3	3	4
		(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(7)	(3)	(3)	(3)	(4)
私立大学	16	22	0	4	3	1	38		10	4	2
		(11)	(0)	(2)	(1)	(0)	(19)		(5)	(1)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0									
		(0)									
独立行政法人等公的研究機関	0	0		0	0		0		0	0	
		(0)		(0)	(0)		(0)		(0)	(0)	
民間機関	5	7		0	0		19		0	0	
		(2)		(0)	(0)		(8)		(0)	(0)	
外国機関	3	3	1	2	1		4	1	2	1	
		(1)	(1)	(2)	(1)		(1)	(1)	(2)	(1)	
その他	4	48	1	7	3		84	4	13	5	
		(22)	(1)	(3)	(1)		(35)	(4)	(5)	(1)	
計	34	92	4	15	9	3	171	9	29	14	7
		(41)	(4)	(9)	(5)	(1)	(76)	(9)	(16)	(7)	(4)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	1			
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）				
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	2			
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名	掲載論文数	掲載年月日	論文名	発表者名
日本大学人文科学研究所研究紀要	1	R2.9	孫思邈の医学思想	舘野正美
Chinese Traditional Medical Journal	1	R2.6	A Medical Hypothesis of Traditional Chinese Medicine Indicates the Status of Autonomic Nervous System	Yoshinobu Nakamura, Mayumi Watanabe, Chikako Tomiyama, Zaigen OH
医薬の門	3	R2.9	尾張徳川家の旧蔵書を有する～名古屋市蓬左文庫～	永塚憲治
わかりやすい臨床中医臓腑学 第4版	1	R2.5	わかりやすい臨床中医臓腑学 第4版	王財源
近世医家新出史料集Ⅰ『改訂版　儒医姓名録―後藤艮山門人録の影印・翻刻』	1	R3.3	儒医姓名録　解題	長野仁
近世医家新出史料集Ⅱ『一本堂南洋先生門人録　増補版』	2	R3.3	『南洋先生門人録』解題	永塚憲治・松岡尚則

共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
近世医家新出史料集Ⅰ『改訂版　儒医姓名録―後藤艮山門人録の影印・翻刻』	武田時昌監修・長野仁編集	R3.3	京都大学人文科学研究所
近世医家新出史料集Ⅱ『一本堂南洋先生　門人録　増補版』	武田時昌監修・永塚憲治編集	R3.3	京都大学人文科学研究所

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

12. 次年度の研究実施計画

なし

13.次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

中医学、韓医学と比較しながらの検討を目的に、台湾、韓国からの特別講師を招いた講演会を今年度に予定であったが、感染症拡大の影響により延期となったため、来年度中に、可能であれば対面方式も取り入れた形態での開催を予定している。同様に計画通りの作業が困難となった松江歴史館・いづも財団・島根県立盲学校と協力しての芦田家文書の目録作成については、やはり予定を繰り下げて来年度以降も作業を継続する。また、班員によるこれまでの研究成果をまとめた論文集刊行のための編集作業を進め、来年度中の刊行を目指している。今後は、本研究班に参加した中堅、若手研究者を中心に国内各所の鍼灸関連書の発掘と研究調査をおこなうグループを組織し、研究に資する基礎資料と成果の蓄積、人的資源の継続的な発展、拡充を図り、日本鍼灸医術研究進展への布石としたい。